

## 第9回「被災地に学ぶ会」のご報告



日時 平成24年12月22日(土) テーマ 「一陽来福」

活動場所 南相馬市小高区熊林

天候 雨 0℃/2℃

活動内容 畑および庭の草刈り

活動人員 34名 (男性26名 女性8名)  
(高校生・院生22名 教員6名 一般6名)

- 日程
- 1:20 八潮高校出発
  - 7:00 南相馬市到着・沿岸被災地域視察
  - 7:30 南相馬市ボランティア活動センター到着
  - 8:30 センター長訓示・マッチング
  - 9:40 現場到着・黙祷・草刈機の使い方講習会
  - 10:00 活動開始(正午より被災者講話・昼食)
  - 14:30 活動終了・後始末
  - 15:30 VCにて終了報告・出発
  - 22:00 八潮高校到着・解散



名物・松本センター長による訓辞

### 【住民のいない一帯】

今回は大型バスの後ろに、援軍の4tトラックが続いてきました。埼玉掃除に学ぶ会代表世話人の荒井康治様、世話人の中村孝明様が草刈り機28台と草刈り用重機2台などの資材を積んで参加して下さいました。

VCでのマッチングを終え、逸る気持ちを抑えながら一行は現場に向かいますが、なかなか現場を特定できずに付近を30分近く彷徨うことになりました。その間、誰ともすれ違うことはありません。ようやく到着した現場は、山あいの集落の一軒家。家主のいないその大きな邸宅の軒下に荷物や資材を揃えて置かせていただきました。ここ南相馬のVCでは活動開始に先立って1分間の黙祷を捧げることになっています。それは被害に遭われた方々に思いを致すと同時に、「都会に残してきた私たちの心」をこの地に持ってくるためです。「黙祷」の号令がかかると、人の声や生活音のない現場に、澄んだ鳥の鳴き声と風の音が響き渡ります。

### 【作業開始】

黙祷後、草刈り機の使い方についての安全講習会を中村様に担当していただきました。現場は民家の庭と4か所に広がる畑。膝丈から背丈を超えるほどの枯れ草が一带に広がっており、1年9か月の歳月は畑を「荒地」に変えてしまいました。まずは3グループに分け、それぞれが別の畑に分かれて活動開始。雨模様の辺りには一斉に草刈り機のエンジン音が轟きます。お互いに安全と効率を考えて声を掛け合いながら草木を刈り取り、刈られた草木は後方班によって数カ所に丁寧に集積されていきます。現場は「畑らしく」甦っていきます。



草刈機を安全に使うための講習会



草刈り用重機が大活躍



トラックと荷台の重機(中村さん)



### 【「忘れない」】

1クール 45分×2クールの作業をこなしたところで正午になり、午前の活動は終了となりました。昼食は「ほっかほっか亭原町東町店」にお願いし、配達して下さった酒井さんには被災当時の事を語っていただきました。一つひとつの言葉がマスコミという間接的なものではなく、生の迫力と情感をもって私たちの胸に迫ってきます。「私たちの事を忘れないで」という切実な訴えが心に響きました。また、お弁当は50人分頼んだので、食べ盛り的高校生たちには2個ずつ配る事ができました。これも皆様からのカンパのお陰です。なお、いただいたカンパは他に、飲み物やカイロ、マスク等の装備品などに支出させていただきました。



### 【仕上げの午後】

雨は大粒になり、寒さも厳しくなってきましたが、午後0時半過ぎから午後の活動を再開しました。午前中で大方の草木は刈ることができましたので、午後は「依頼主様に喜んでいただく」ように仕上げの精度を上げていきます。チームの誰もが「心をここ南相馬に」もってきて、自分のベストを尽くしているのが分かります。全員が集中力を切らさぬまま作業に没頭し、計画通り14時半に活動終了となりました。安全面で心配された草刈り機での作業でしたが、誰一人怪我することもなく、無事終わることができました。

### 【「被災地」と「非被災地」】

午後10時に地元草加駅に戻ってきました。普段意識しませんが被災地から帰ってきて、「非被災地」の街の明るさと人の多さ、そして空騒ぎに哀しさを覚えました。これも同じ日本です。つい1年前は心ひとつに絆の大切さを訴え、自らも制限し、被災地に心を砕いていたのに...。私たちははいよいよ「強き東北」から謙虚に人間としての在り方を学ばせていただかねばなりません。

